

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 国語科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・令和4年度村学力調査から、全国平均を下回る結果となった。説明文の出題のねらい「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を理解する」では、全国平均60.2%より約12%低い48%となった。また、「文章を書く」の内容では、出題4問すべてにおいて全国平均を大きく下回り「自分の意見とその理由を明確に書いている」では、目標数値40%に対して16%となっていた。「文章の情報を理解する」「文章を書く」ことに課題が見られる。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・難意語等を国語辞典や漢和辞典を使って調べることで、言葉を正しく理解する。
- ・漢字バッチリノートを活用し、家庭学習で漢字を練習する。
- ・漢字小テストを実施し、100点合格を目指す。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・既習学習の内容を復習する時間を、スキルタイムに確保し、前学年の内容も振り返り学習を進める。
- ・グラフなどの資料を読み取る力を身に付けるために、資料からどんな情報を得られるか全体で確認、共有し、自分の考えをまとめるようにする。
- ・自分の意見をもたせるために、朝の会でニュースから思った自分の意見を発表する。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ① グラフなどの資料を読み取る力を身に付けるために、資料からどんな情報を得られるか全体で確認する。
- ② 自分の意見をもたせるために、朝の会でニュースから思った自分の意見を発表する。
- ③ 既習学習の内容を復習する時間を、スキルタイムに確保する。

＜検証方法＞

- ① 朝の会で発表するニュースと自分の意見を要約させたノートから検証する。
- ② 物語文や説明文で、毎時間意見をノートに書く時間を設定する。
- ③ ミライシート等の進捗や定着度を確認する。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 社会科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・令和4年度学力調査では、各領域で全国平均を下回っていた。社会における学び方、問題解決的な学習を理解する必要がある。また、「社会科」に対して苦手意識がある児童が45%ほどいる。社会科に対しての苦手意識をなくし、「主体的に学習に取り組む態度」を育てる授業展開を考えていかなければならない。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ICTなどの機器を使い、歴史に関する話や実際の映像を見せることで、今の生活と深いかかわりがあることに気付かせる。
- ・歴史人物について調べ、レポートを作成する。
- ・ゲストティーチャーによる講話、実物に触れる機会を増やす。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・単元の学習計画の見通しをもたせ、学び方を理解させるために、効果的にICT機器を利活用した資料作成を行い、導入時で提示する。
- ・歴史領域において、年号と事象を覚えさせるのではなく、歴史的背景を理解させる学習内容とする。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①ICT機器を使い、資料を作成し導入で活用する。
- ②歴史領域において、年号と事象を覚えさせるのではなく、歴史的背景を理解させる学習内容とする。

＜検証方法＞

- ①学習計画が、問題解決的な学習になっているかを確認する。
- ②ノートの記述を確認する。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 算数科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・令和4年度学力調査では、各領域で全国平均を下回っていた。特に「整数の仲間分け」「分数の計算」「面積」「比例・単位量あたりの大きさ」「割合」「グラフ」において課題が見られた。
- ・分数の計算を正確に解く力を身に付けさせる必要がある。
- ・数の概念や図形をより具体的にイメージすることが苦手である。
- ・演習の時間を確保し、基礎的な問題が正確に解ける力を身に付けさせる必要がある。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・公式の構成や導き出し方の学習を通して、公式の有用性を理解し、活用することができるようにする。
- ・多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考えさせたり、学習したことを生活や学習にどのように活用できるか考えさせたりすることで、理解の定着を図る。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。
- ・数の概念や図形をより具体的にイメージしやすいよう、既習内容や問題を可視化する。具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。  
また、達成度を記録し、把握しておく。
- ②自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。

＜検証方法＞

- ①毎時間、授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。
- ②ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 理科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度学力調査では、「ふりこのきまり」が目標値30%に対して8%とふりこの往復時間の求め方の理解が十分ではない。また、結果から考察を書き表すことが苦手である。電流のはたらきについても同様の結果となっている。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・理科に出てくる言葉を絵や図を用いてわかりやすく記録し、確認することで定着を図る。
- ・全単元で実験の機会、観察の機会等の体験的な学習を増やす。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・すべての単元において、特に実験領域では、理科における学び方、問題解決型の学習習慣を身に付けさせ、結果から新たな疑問をもたせる終末にする。
- ・ICT機器を使つての学習補充を行う。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ①すべての単元において、特に実験領域では、理科における学び方、問題解決型の学習習慣を身に付けさせ、結果から新たな疑問をもたせる終末にする。
- ②ICT機器を使つての学習補充を行う。

#### <検証方法>

- ①単元ごとのノートを回収し、学習状況の確認を行う。
- ②単元学習後のテスト、レディネステストにおける平均点を分析する。平均点は85点を目標とする。また、テスト返却時に補足説明をする。

### 4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

#### <成果>

#### <課題>

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・

・

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 音楽科〉**

**1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題**

- ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
- ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。
- ・響きのある歌声で、周りの歌声や伴奏を聴きながら声を合わせて歌うことや、音色や響きに気を付け、音を合わせて楽器を演奏することに対する意識をさらに高めていく必要がある。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・自然で無理のない声で歌うことや二部合唱の良さを実感した児童が増えた。
- ・合奏の中で音の重なるの良さを実感した児童が増えた。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。
- ・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての理解を深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴にふさわしい表現を考えて表現することができるようにしている。
- ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

**＜方策＞**

- ①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について理解を深めたり、それにふさわしい表現をしたりすることができるようにする。
- ②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。

**＜検証方法＞**

- ①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての理解やふさわしい表現の工夫について深めることができたか確かめる。
- ②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

**＜成果＞**

**＜課題＞**

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 図画工作科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・ 図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・ 表しいものに合わせて材料や道具などの使い方の工夫する力をさらに高める。
- ・ 計画性や手順などを具多的に考えたり、アイデアを広げたりする力をさらに高める。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 材料や道具を自分の表したいことに合わせて工夫して使おうとする姿が増えた。
- ・ 発想が広がるようなテーマや導入の工夫が必要である。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ 材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認する。
- ・ 児童と実際にその材料や道具で工夫できるところを確認し、実際に試すことのできる学習場面を設定する。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ① 掲示や ICT を活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。
- ② ワークシートを活用しての活動の手順を計画したり、アイデアを広げたりする。

＜検証方法＞

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- ② 児童や作品、ワークシートの観察。全児童がある程度の見通しを持ちながら、自分なりに計画やアイデアを実現できるようにする。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**







**〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 外国語科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・児童によって学習意欲に差がある。意識の低い児童が25%ほどいる。
- ・パソコンの入力に問題はないが、大文字小文字の使い分けが十分でない。
- ・スピーキングとリスニングを苦手とする児童が20%ほどいる。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・動作と取り入れ、話す聞くを連動させる。
- ・文章の大文字・小文字の使い方について、毎時間確認する。
- ・外国語活動以外の時間でも、英語を使った挨拶や指示をする。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①動作と取り入れ、話す聞くを連動させる。
- ②文章の大文字・小文字の使い方について、毎時間確認する。
- ③外国語活動以外の時間でも、英語を使った挨拶や指示をする。

＜検証方法＞

- ①ワークシートや教科書を活用して意欲・関心、技能の向上を確認する。
- ②英会話を積極的にできるか、慣れ親しんでいるか確認する。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

**5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】**

- ・
- ・

**6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】**

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 道徳科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・実生活ではなく教科書の中の出来事と捉えてしまっており、実生活につながっていない児童が10%ほどいる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・振り返りの際に、学習で学んだ内容をイラストに表すなどさせる。
- ・実生活に置き換えた課題を話し合わせる時間を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①振り返りの際に、学習で学んだ内容をイラストに表すなどさせる。
- ②実生活に置き換えた課題を話し合わせる時間を設ける。

<検証方法>

- ①ワークシートの振り返りで確認する。
- ②自分の意見をもつだけでなく、身近な事象に置き換えて問題を捉えているかをワークシート等で確認する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 総合的な学習の時間〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原諸島の世界遺産としての価値について考える上で、学年を系統立てた学習であったと理解している児童が50%ほどと高くない。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・外部講師の講義から課題を見つけだし、インターネットや本などで調べ学習を展開していく。
- ・学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①外部講師の講義から課題を見つけだし、インターネットや本などで調べ学習を展開していく。
- ②学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。

〈検証方法〉

- ①ワークシートと作成した発表資料の内容から把握する。
- ②学習全体の流れと現在の学習の関連性を確かめる。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

〈成果〉

〈課題〉

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】